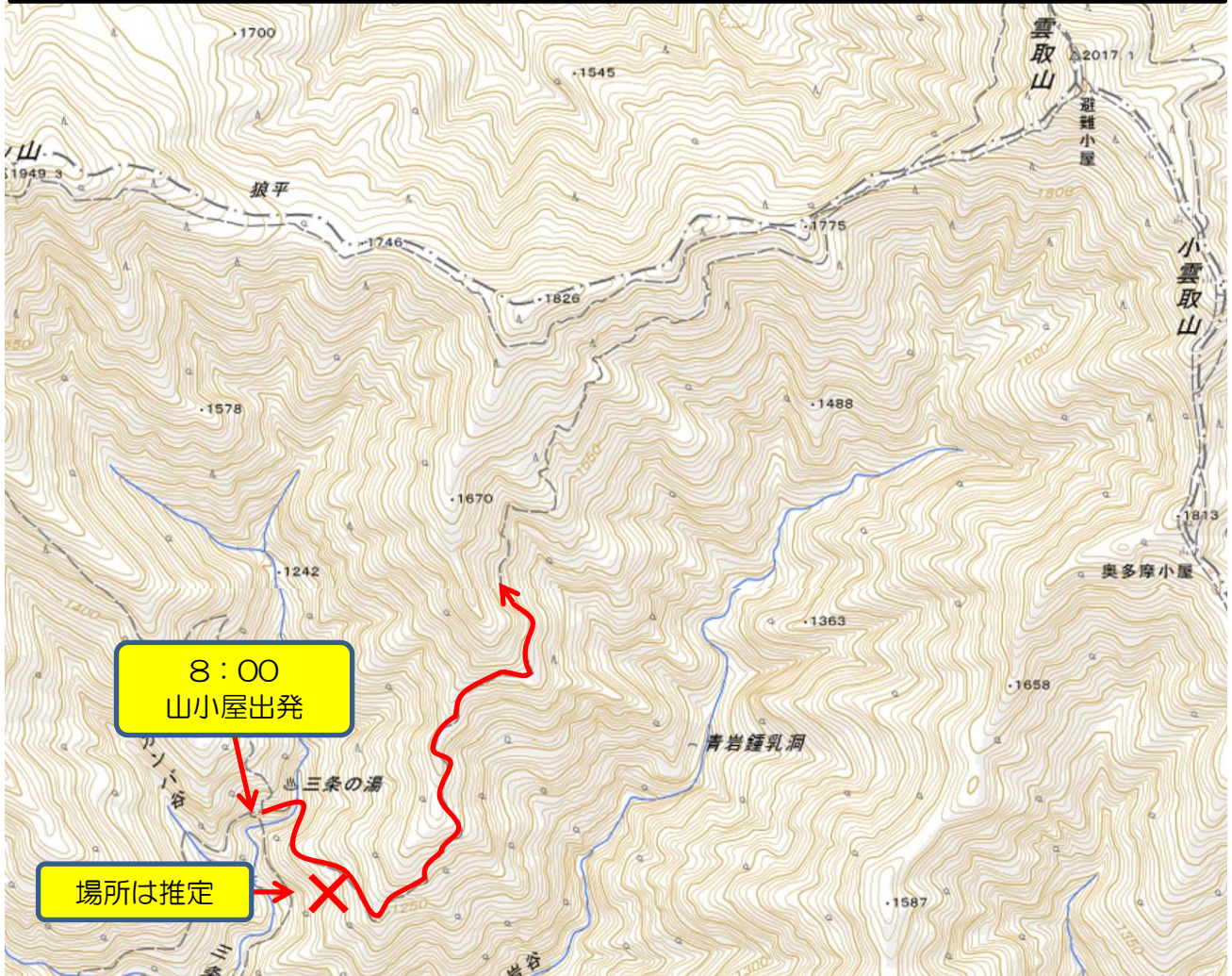


雲取山遭難(2019年8月)

48歳女性単独。雲取山に1泊2日で計画し、登山道から外れて道迷い。じっと動かずに救助を待ち、7日ぶりに救助された。



解説

県警に対し、女性は「1日分の食料と水しかなく、5日間は飲まず食わずだった」と説明。保温性のあるアルミ製のシートにくるまって雨露をしのいだ。遭難後、近くで捜索隊の声が聞こえて助けを求めたが発見されず、その後もじっと動かずに耐えた。見つかった地点は山小屋から約250メートルの斜面で、女性は捜索隊の呼びかけに笑顔で応じたという。」(HP参照)

記事によると「道に迷い登山道を滑り落ちてしまい、けがはなかったものの体力の消耗を避けるためその場で救助を待ち続けた・・・。」とある。

①山小屋から250m離れた地点。②滑り落ちたがけがはない。③朝8時に小屋を出発していたため時間的な余裕がある。

じっとしていたのには理由があると思うが、小屋に引き返す選択肢はなかったのだろうか？他の事例でも、じっと待っていたが、救助されなかったため行動に移した事例(豊川山岳会HP 2023.7.19 【2022年11月:八経ヶ岳遭難】142 参照)もある。何が正しいか難しいが、無事よかった。